

I 計画の位置づけ・計画期間【第1章P4】

- スポーツ基本法第10条に基づく地方スポーツ推進計画
- 「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の個別計画
- 計画期間
令和6年度(2024年度)~令和15年度(2033年度)の10年間
※中間の5年目を目途に見直しを想定

II 計画の策定にあたって【第2章P5~13】

- 1 国の動向 ・2022年3月 第3期スポーツ基本計画策定
- 2 社会情勢の変化
 - 超高齢社会の進行
 - 価値観の多様化
 - コロナウイルスの流行
 - 環境問題への対応の必要性
- 3 札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化
 - 第2次まちづくり戦略ビジョン策定
 - 国際的スポーツイベントの開催
 - 新たなスポーツの発展 等

4 策定の必要性

- ◆国の計画策定に伴い、その内容を参酌した計画策定を期待。
- ◆スポーツ環境の変化等を把握し、今後の方向性等を設定。
- ◆第2次ビジョンの都市像実現に向けた取組との連動が必要。

III 札幌のスポーツの現状と課題【第3章P14~42】

目標1 スポーツの力で「市民」ががやく

- 方針1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進
- 方針2 スポーツを通じた健康増進
- 方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

- 方針4 スポーツを通じた共生社会の実現
- 方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

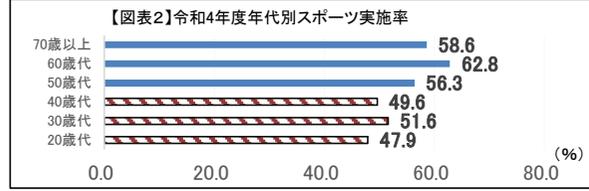
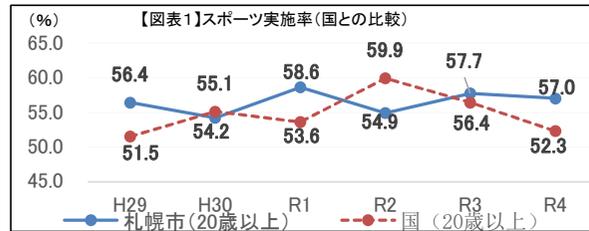
- 方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信
- 方針7 世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

成果指標の達成状況等

● スポーツ実施率(目標値:65%)

(週に1回以上スポーツをする20歳以上の割合)

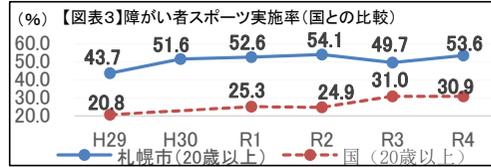
- 年代別スポーツ実施率(図表2):20~40歳代が他の年代と比べて低く、60歳代以上は平均より高い。
- 種目別スポーツ実施率:「ウォーキング・散歩」等の軽い運動や一人で気軽に出来る種目が高い



● スポーツ実施率(目標値50%)

(障がいのある方で週に1回以上スポーツをする20歳以上の割合)

- スポーツ実施率
目標値を達成したが、近年は横ばいで推移。
- 実施の促進要因(今以上の実施に必要なこと)
「健康と体力」65.4%、「身近に行える場所」49.4%、「指導してくれる人」37.3%の順に高い。



● ウインタースポーツ実施率(目標値25%)

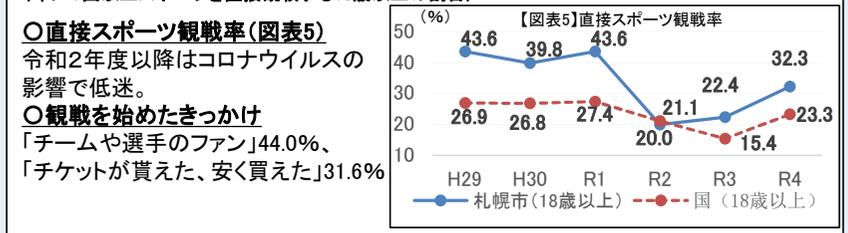
(年に1回以上ウインタースポーツをする18歳~49歳の割合)

- 年代別実施率(図表4)
 - 実施の阻害要因
「寒い」21.7%、「用具が高い」20.5%、「施設が遠い」17.5%
- | 年代 | 実施率 | 年代 | 実施率 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 20歳以下 | 19.6% | 50歳代 | 6.3% |
| 30歳代 | 13.7% | 60歳代 | 4.0% |
| 40歳代 | 22.3% | 70歳以上 | 3.3% |
| 18歳~49歳平均 | | | 18.9% |

● 直接スポーツ観戦率(目標値50%)

(年に1回以上スポーツを直接観戦する18歳以上の割合)

- 直接スポーツ観戦率(図表5)
令和2年度以降はコロナウイルスの影響で低迷。
- 観戦を始めたきっかけ
「チームや選手のファン」44.0%、「チケットが貰えた、安く買えた」31.6%

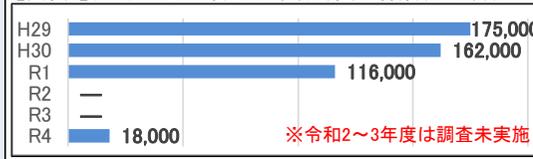


● ウインタースポーツ目的の来札外国人客数(1~3月)(目標値98千人)

○状況

当初目標を250千人としていたが、令和2年度に98千人に下方修正。令和4年度実績はコロナウイルスの影響で、大幅減。

【図表6】ウインタースポーツ目的の来札外国人客数(1~3月)



【主な課題】

- 身近でスポーツができる場所や気軽に参加できる機会の確保
- 健康・体力づくりを目的としたスポーツ参加機会の充実が必要
- ウインタースポーツに関しては、年齢等に応じた参加機会、経済的負担の軽減、気軽に実施できる環境整備が重要
- スポーツボランティアは、身近な場所・気軽な参加、情報の周知が必要

【主な課題】

- 市民ニーズに応じた障がい者スポーツの場の充実等が必要
- 障がい者スポーツに関わる機会や指導者等の人材育成が不足
- プロスポーツチーム等と連携した観戦機会の創出が重要
- 市民ニーズに応じたスポーツ観戦のきっかけづくり
- 更なる地域活性化には、新たなスポーツツーリズムの開拓等が必要

【主な課題】

- 若年層に人気のアクションスポーツや開催経験の少ないパラスポーツ大会開催等による、更なる集客や交流人口拡大が必要
- 様々なウインタースポーツの大会開催や環境整備が重要

【オリンピックパラリンピック招致活動の総括】

- オリンピックへの不信感を払拭し、開催意義等をイメージできる明確なメッセージが必要だった。
- 民間が主導となり関係団体を巻き込んだオールジャパン体制の構築が必要だった。

【招致活動の効果】

- ① 国際スポーツ大会の開催:招致活動期間に多くの大規模国際大会が札幌で開催され、大会運営能力が大きく向上。
- ② 市民・企業等との協働:市民にとって、将来のまちづくりについて考え意見を述べる機会となった。
- ③ まちづくりの加速:大会開催がマイルストーンとなり、民間投資が誘発されて都心を中心としたまちづくりが加速、バリアフリー化が進んだ。

IV 計画において取り入れる視点【第4章P43~46】

1 国の第3期スポーツ基本計画

- (1) 多様な主体におけるスポーツ機会の創出
- (2) スポーツによる健康増進
- (3) スポーツの成長産業化
- (4) スポーツによる地域創生、まちづくり
- (5) スポーツを通じた共生社会の実現
- (6) スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

2 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

- (1) 健康寿命の延伸
- (2) 共生社会の実現
- (3) 地域・経済の活性化
- (4) ウィンタースポーツ振興

V 計画の方向性【第5章P47~51】

1 基本的な考え方

スポーツ参画人口の拡大を通して、スポーツを通じた健康増進や共生社会の実現、地域・経済の活性化などの社会課題の解決に繋げていく。

2 基本理念・目標

スポーツの力でまちの未来を切り拓く

- ◆スポーツの持つ力は、様々な社会的課題の解決等に対し、効果が期待できるもの。
- ◆札幌市においても、スポーツを通じて、まちの課題を解決し、まちのよりよい未来を切り拓くことが重要。

目標1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち	目標2 ひととひとがスポーツでつながる共生のまち	目標3 スポーツによりにぎわいがあふれているまち
市民誰もが、一人一人のニーズに合わせて気軽にスポーツに参加し、楽しむことができ、生涯にわたって心身の健康が増進され、活力に満ちた生活を送れることを目指します。	年齢や性別、国籍、障がいの有無などを問わず、市民が多様な形でスポーツに共に参加することができ、スポーツを通して関わり合うことで、相互に理解・尊重し合える社会の実現を目指します。	多種多様なスポーツ大会が開催されるなど、世界からスポーツ都市として注目されており、国内外からスポーツ目的の人が集まることによって、地域・経済が活性化することを目指します。

3 成果指標・目標数値

成果指標	現状値	目標値	関連目標	
	2022年度	2033年度		
①スポーツ実施率	20歳以上・週1回	57.0%	70.0%	1 2
	障がい者・20歳以上・週1回	53.6%	60.0%	1 2
②ウィンタースポーツ実施率(18歳~49歳・年1回)	18.9%	30.0%	1 3	
③直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上)	32.3%	50.0%	2 3	
④スポーツ目的の来札観光客数(道外・海外)	236,000人	1,000,000人	2 3	
⑤スマイル・サポーターズ登録者数	1,070人	2,000人	2	
⑥強化指定選手に選出されるアスリートの育成数	12人(延べ)	50人(延べ)	1	

新規設定

VI 目標達成に向けた方針・施策【第6章P52~85】

◎:新規事業または新規に検討を行う事業 ☆:既存事業のレベルアップ

方針1 誰もがスポーツに参加できる機会の創出 関連目標 2

子ども、仕事や子育て中の世代、高齢者など、様々な主体が、それぞれの目的・状況に応じてスポーツに取り組める機会を創出します。

施策1 子ども、仕事や子育て中の世代、高齢者のスポーツ参加を促進します

- 主な取組 ☆子どものスポーツ参加のきっかけづくり ☆地域スポーツ指導者の中学校への派遣
- ◎冬季における子どもの運動機会の増進 ☆ウォーキングの推進
- ◎新しいタイプのスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)の育成

施策2 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

- 主な取組 ◎ICTを活用したスポーツで得られた医学的知見の情報発信
- ◎運動習慣等の獲得の推進 ◎ウェルネス推進事業

施策3 地域主体のスポーツ活動を支援・促進します

- 主な取組 ◎運動部活動の地域移行に向けた体制整備
- ・体育振興会などの地域スポーツクラブの活動支援

方針2 多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実 関連目標 2

スポーツ施設等を有効活用し、市民誰もが目的・競技レベルなどに併せてスポーツに取り組めるよう、多様なニーズに対応したスポーツ実施場所の確保・充実を図ります。

施策4 身近にスポーツに親しめる場所や機会を充実させます

- 主な取組 ☆将来を見据えたスポーツ施設の整備 ☆札幌ドームの活用促進

施策5 市民ニーズに応じたスポーツ施設等を充実させます

- 主な取組 ☆スポーツ施設供用時間の延長の検討 ☆アクションスポーツなどの練習施設整備補助
- ◎スポーツ施設におけるアスリート・障がい者スポーツ枠新設の検討
- ☆札幌ドーム周辺活用の推進

方針3 世界で活躍するトップアスリートの輩出 関連目標 2 3

札幌から世界レベルのトップアスリートの輩出に向けた発掘・育成の取組を推進するとともに、アスリートの活躍を支援し、市民のスポーツ機運向上を図ります。

施策6 アスリートの発掘や育成を支援し、競技力の向上に取り組めます

- 主な取組 ☆スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘・育成
- ・総合型ハイパフォーマンススポーツセンターや大学、アスリート、競技団体等との連携強化

施策7 アスリートと連携したスポーツ機会の提供を充実します

- 主な取組 ☆アスリート・オリンピックの活用 ☆ウィンタースポーツインストラクターの派遣

目標1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち

方針4 障がい者スポーツの推進 関連目標 1

障がい者スポーツをより一層推進していくため、障がい者スポーツの場の充実や、障がいの有無を問わず、障がい者スポーツに関わる機会を創出し、障がい者スポーツへの参画を促進します。

施策8 障がいの有無を問わずスポーツに親しめる機会を創出します

主な取組 ☆障がい者スポーツ体験会の実施 ☆障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催
☆障がい者スポーツ大会の誘致及び開催

施策9 障がい者スポーツの実施環境を整備します

主な取組 ◎障がい者スポーツセンターの設置検討
☆学校開放における障がい者スポーツ優先枠の設定
◎スポーツ施設におけるアスリート枠・障がい者スポーツ枠新設の検討(再掲)

方針5 スポーツを通じた交流機会の創出 関連目標 3

スポーツを通じて多様性の理解、尊重を深めていくため、大規模な国際大会等における、国際交流・ボランティア活動・地域交流等を促進し、人々の交流機会を創出します。

施策10 スポーツを通じた国際交流や異文化理解を推進します

主な取組 ・国際大会の開催を契機とした国際交流の実施

施策11 スポーツを支える人材を育成し、活躍の場を拡大します

主な取組 ☆スポーツボランティアの活動及び研修機会の充実 ・指導者講習会の開催

方針6 スポーツをみる機会の充実 関連目標 3

本市が蓄積してきた多くの国際大会の開催経験やトップスポーツチームとの連携体制を生かし、市民が多様なスポーツを観戦する機会の充実を図ります。

施策12 トップスポーツチームと連携し、トップレベルのスポーツ観戦機会を創出します

主な取組 ☆プロスポネットSAPPOROによる取組
☆トップレベルの試合や国際試合を開催する際の広報・シティドレッシングの実施

施策13 市民のスポーツ観戦機会を充実します

主な取組 ◎親子の無料招待の実施 ◎パブリックビューイングの実施 ☆国際大会などの誘致・開催
☆アクションスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会・イベントの誘致・開催

方針7 スポーツを通じた地域・経済の活性化 関連目標 2

札幌の豊富なスポーツ資源を生かし、国際大会等の誘致・開催や札幌の特色を生かしたスポーツ・観光コンテンツの活用・造成などを行い、地域・経済の活性化を図ります。

施策14 国際大会やスポーツイベントの誘致・開催を促進します

主な取組 ☆国際大会などの誘致・開催(再掲) ・海外代表合宿の誘致

施策15 札幌の特色を生かし、道内市町村とも連携したスポーツ・観光コンテンツを造成します

主な取組 ・マラソンツーリズムの推進 ・スキープロモーションの実施 ・市民スポーツ大会の開催

施策16 札幌のスポーツ資源を活用し、スポーツによるにぎわいづくりを推進します

主な取組 ◎札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ ◎大倉山ジャンプ競技場の機能向上
☆スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出

方針8 誰もが気軽にウインタースポーツを楽しむことができる環境の充実 関連目標 1 2

ウインタースポーツをより一層振興していくため、ウインタースポーツ実施に係る経費の支援やウインタースポーツに気軽に取り組める場の創出、世界屈指のウインタースポーツシティへの発展に向けたシティプロモートと環境整備を推進していきます。

施策17 ウインタースポーツを体験できる機会を充実します

主な取組 ☆ウインタースポーツ塾の開催 ☆施設の更新に併せたスポーツ実施環境の改善
◎企業等と連携したウインタースポーツイベントの開催 ・歩くスキーの普及振興

施策18 ウインタースポーツ実施に向けた支援を充実します

主な取組 ☆ウインタースポーツ実施時の利用料金等の助成 ☆スポーツ練習施設の整備補助

施策19 ウインタースポーツ拠点を構築します

主な取組 ◎スノーベースタウンSAPPOROの促進 ◎スノーリゾート推進事業
☆オリンピック、パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育

Ⅶ 計画推進のための取組【第7章P86～91】

- 1 市民や関係団体との協働 : 市民やスポーツ関係団体、企業、大学など、様々な主体と連携。
- 2 将来を見据えた施設の配置活用 : 持続可能な施設配置や多様性のあるスポーツ環境を実現し、将来にわたって市民の誰もがスポーツに参画できる機会を創出。
- 3 計画の進行管理 : スポーツを取り巻く情勢の変化等に対応するため、計画内容は適宜見直し。計画の進捗は、毎年度、市スポーツ推進審議会で報告。